

コナガ情報第1号

令和元年10月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

コナガの発生に注意！

1 発生状況

10月上旬に実施した巡回調査の結果、ハクサイにおけるコナガの寄生株率が0.50%（平年0.07%、前年0.08%）、発生ほ場率が21.4%（平年4.4%、前年8.3%）で、ともに過去10年と比較して最も高い状況です。また、キャベツにおけるコナガの寄生株率が0.95%（平年0.51%、前年0.20%）、発生ほ場率が30.0%（平年14.6%、前年15.0%）で、ともに過去10年と比較して3番目に高い状況です。

2 コナガについて

幼虫（図1）は、体の両端がとがりぎみの紡錘形の小さな青虫です。葉裏から円形または不規則な形に葉肉だけを食害し、葉表の表皮を残すため葉が透けて見えます。

関東以西では、主に春から初夏、秋の発生が多いですが、冬期にも緩やかながら成育を続け、加害します。

降雨の影響を受けやすく、雨が連続すると成虫（図2）、幼虫ともに減少します。反対に、雨が少ないと発生が多くなります。



図1 コナガ終齢幼虫



図2 コナガ成虫

3 防除対策

- (1) ほ場での発生状況をよく観察し、適用のある農薬で防除しましょう（表）。周辺に収穫間際の作物がある場合は、特にドリフトに注意し農薬を散布しましょう。
- (2) 薬剤抵抗性がきわめて発達しやすいので、IRACコードを参照に同一系統の薬剤を連用しないよう注意しましょう（表）。
- (3) ジアミド系（IRACコード：28）やオキサダイアジノン系（IRACコード：22A）等の農薬について、栽培地域で防除効果の低下が疑われる場合は、別系統の薬剤を散布しましょう。
- (4) 発生が多いほ場は、周辺ほ場への発生源になるので、収穫終了後は残渣を速やかにすき込みましょう。

表 コナガに対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	成分名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	IRACコード
はくさい キャベツ 共通	スピノエース 顆粒水和剤	スピノサド	収穫3日前まで	2500～ 5000倍	3回以内	5
	フローバックDF	BT	収穫前日まで	1000～ 2000倍	-	11A
	ディアナSC	スピネトラム	収穫前日まで	2500～ 5000倍	2回以内	5
はくさい	アフーム乳剤	エマメクチン 安息香酸塩	収穫7日前まで	1000～ 2000倍	3回以内	6
	ゼンターリ 顆粒水和剤	BT	収穫前日まで	2000倍	-	11A
キャベツ	アフーム乳剤	エマメクチン 安息香酸塩	収穫前日まで	1000～ 2000倍	3回以内	6
	ゼンターリ 顆粒水和剤	BT	収穫前日まで	1000～ 2000倍	-	11A

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/pdf/2019/mechanism_irac03.pdf を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。